



No.	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
1	城山カブトムシの里プロジェクト	昆虫文化を子供たちに伝える会	<p>① 子どもの教育:カブトムシを題材として自然の生き物の生態や不思議さを理解させる。エサの循環を通し、『カブトムシとSDGs』を理解させ、自然環境の重要性を認識させるとともに、子ども同士、親子のふれあい、祖父母を含めた3世代の仲間が笑顔で交流する機会を創出する。</p> <p>② 地元の観光振興:『リアル昆虫採集』などで観光客を呼び込むとともに、地区内外での活動報告により城山地区の魅力を発信し、里山の自然を活用した地元の観光振興に寄与する。</p> <p>③ 里山復活:虫好きの若い親子の力を借りて、荒廃した里山の雑木林の下草刈り、谷戸を流れる沢の整備などを行い、害獣を捕まえる罠が必要でなくなる安心安全な自然あふれる里山を復活させる努力をする。</p>	<p>・5月7日・18日 神奈川テレビ(TVK)のテレビ番組『猫のひたいほどワイド』の取材を受け、昆虫文化を子供たちに伝える会の活動が放映された。</p> <p>・6月22～27日 『相模原里地・里山活動サミット展示会』をもみじホール城山で開催した。市内外の18の活動団体がポスター展示を行い、お互いの交流を図った。</p> <p>・7月16～18日 『リアル昆虫採集 in 城山・相模原』を、城山公民館と川尻八幡宮上の雑木林で開催し、40組の家族が参加した。</p> <p>・8月9日 『昆虫標本作製体験会』を開催し、乾燥したカブトムシやクワガタをきれいな昆虫標本に仕上げる標本作りを体験してもらった。</p> <p>・8月27日 大学講師に、自身の最新のカブトムシ研究を分かりやすく講演していただいた。</p> <p>・9月27日～10月3日 『第3回昆虫文化のつどい』川尻小学校2年生の虫の絵など、多くの子供たちの昆虫体験ポスターをもみじホール城山で展示した。また、相模原市水みどり環境課製作のナラ枯れ紹介ポスターと、ナラ枯れを引き起こすカシノナガキクイムシの現物300万頭を展示し、多くの市民にナラ枯れ問題を知っていただいた。</p> <p>・10月22～23日 城山地区市民文化祭でポスターによる活動報告を行った。ナラ枯れ紹介ポスターとカシノナガキクイムシの現物300万頭も展示した。</p> <p>・11月17日 『相模原市立博物館学びの収穫祭』にて、会の活動内容を口頭発表するとともに、ポスターでも発表した。相模原市を悩ます”ナラ枯れ”の原因となっているカシノナガキクイムシの現物を市長など来場者にお見せした。</p> <p>・1月19～23日 『第2回新春昆虫文化のつどい』:第3回昆虫文化のつどいで展示した子供たちの作品に加え、成虫のヘラクレスオオカブトや多くの昆虫標本をアリオ橋本の通路で展示した。ナラ枯れ紹介ポスターと、カシノナガキクイムシの現物300万頭を展示し、多くの市民にナラ枯れ問題を知っていただいた。多数の買い物客などの市民が来場し、多くの質問を受けた。</p> <p>・1月28日 『第5回昆虫講演会』講師による”知ってるようで知らないミツバチのお話し&amp;失敗しない養蜂技術”を開催した。巣から取りだした蜂蜜の無料試食も行ったので、好評であった。</p> <p>・3月25日 『第3回春の昆虫文化フェスティバル』、かたくりの里広場で行う予定であったが、雨天のため、急遽、城山公民館に会場を変更した。山のようにした腐葉土の中から、子供たちがカブトムシの幼虫を掘り出す”幼虫ゲット”や虫の塗り絵、成虫のヘラクレスオオカブトやめずらしい虫の標本展示など、イベントが盛りだくさんのおまつりを開催した。市長や区長なども来場され、子供たちと一緒に虫の絵を描くなど、楽しい時を過ごすことができた。</p>	<p>本事業で行ったイベントに参加した小学生、幼稚園、保育園児は、昆虫に対する興味が増し、城山地区は自然が豊かで、カブトムシを始め、多くの昆虫や生き物が生息していることを理解してもらえたと考ええる。市内外、県外からもイベントに参加する人が増えたことより、城山地区の自然環境が緑区の有力な観光資源の1つであることを城山観光協会や相模原市観光協会に認識していただいた。また多くのイベントに本村賢太郎市長をはじめ、副市長、教育長、緑区長など行政に携わる方々の視察も増えたことで、公共性もあり、社会への貢献度も高いと考ええる。</p>	カブトムシを中心とした昆虫文化を子供たちに伝える会の活動には緑区のみならず、中央区、南区、市外、県外からも、年々、多くの親子が参加するようになり、城山地区の自然環境が子供に元気を与え、観光振興に役立つことが証明されたと考えられる。したがって、『城山カブトムシの里プロジェクト』の目的はおおむね達成されたと考える。	R4.4.22	464,000

No.	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
2	城山湖ヒルクライムア タック雌龍籠山ステージ	城山湖ヒルクライム実 行委員会	<p>・参加選手は練習に訪れたりするため、通年の訪問者を増やし、城山地区の魅力の発信と知名度向上に繋げる。</p> <p>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース競技の大会後のレガシーとして、自転車ロードレース競技の普及及び城山地区の魅力発信と知名度向上を図る。</p> <p>・市民が主体となって「城山地区のために!!」をスローガンとして地域内住民の連携強化を図る。</p> <p>・スタッフも楽しめるイベントとし、地域連携、事業参加の楽しさや重要性を市民に体感していただく。</p>	<p>◆実行委員会全7回(出席者:①12名②12名③10名④11名⑤12名⑥7名⑦12名)</p> <p>◆ボランティアスタッフ説明会(出席者:50名)</p> <p>◆前日準備(参加者25名)</p> <p>◆大会当日(参加選手98名 ボランティアスタッフ80名)</p>	<p>男性96名 女性9名(神奈川県55名 近郊県50名)合計105名の参加申込(当日出走は98名)があり、地域団体(自治会、観光協会、商工会等)や個人ボランティアの協力により、地域一体となった事業として開催することができた。また、第3回を迎えることにより参加者からロードレースとしての認知が高まり、城山地区の魅力発信の機会となった。</p> <p>本大会を通じて、ツアーオブジャパン相模原ステージとともにシティプロモーションの推進、シビックプライドの醸成につなげられたものと考えている。</p>	<p>・地域団体、個人ボランティアの協力を得て地域一体となった事業運営を行うことができた。</p> <p>・大会キャラクター「めたつごちゃん」を作成しPRを行った。</p> <p>・大会ポスターの掲示、SNSでの情報発信等を積極的に行い早期に定員を充たすことができ参加数も増加した。</p> <p>・前回の成果を踏まえ、スタート方法の改善やリアルタイムでレース実況を実施。また出走選手のラストスパートの意識高揚ため、残り500M地点に「ドラ」を設置するなど観戦者と出走選手、待機選手への気分高揚となり、選手、観客、スタッフが一体となって事業の盛り上げに大いにつながった。</p> <p>・城山湖周辺を会場とすることで、城山地区の自然環境や観光資源をはじめとする魅力を発信することができた。</p> <p>・次回へつなげるために参加選手へのアンケートを実施し、「成果の見える化」を図った。</p>	R4.4.22	815,000
							1,279,000	